

スマイルタイムズ

平成21(2009)年7月21日(火)発行

発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹

<http://www.nakayama-clinic.jp>

アメリカの一端

総務 松井 正

もう35年ほど前、小浜の発心寺に修業に来ていたアメリカ人に個人的に日本語を教えることになった。彼は勉強熱心で、たちまちうまく話せ、漢字は日本の中学生よりもうまく書くようになった。日本文化研究ということにして外務省に私が申請と保証をした。何年かしてつてを得て上京し、日本語と英語の実力を生かし、電通(広告社)などで日本製の車、電気製品など広告の英訳の仕事をし始め、以後、彼は30数年間、日本で暮らした。

よって日本女性との結婚には私が仲人として東京の式に出た。10年ほど前のこと、彼の両親が日本へ来られた時“一人息子が日本へ行ったきりでは寂しいことないですか”と問うたところ母親がきっぱり言った。“いえ、息子が行った先でハッピーなら私達もハッピーです”と。

その彼が4年前に新しい日本女性とその間に出来た息子を連れてアメリカへ帰った。そして、私達夫婦にぜひ自分の家に来てくれという。それで行程は、全NWE(ノースウエスト航空)で 関空→(国内)→成田/→(国際)→米デトロイト/→(国内)→RDU(ローリーダーラム)。片道全飛行時間15時間余、待ち時間などをいれると25時間以上、大変だが、切符(飛行機代)だけそちらで買って来てくれればよい、ホテル代など一切不要、ということで渡米することとなった。

彼は私達に「万分の一のお礼だ」と言って笑わせた。

彼の家は大きかった。高さ20mほどの木立に囲まれていて、隣との間に柵はない。その辺り一帯がそうである。では、そ

れほど隣人との垣根はないのかと言うと、全くそうではない。隣一軒とは時々挨拶はするが、向こう(と言っても6mくらいのアスファルト道路を挟んで、さらにそこから各々の家は土道を10mは入り込んだ所に玄関がある)とはついぞ話したことがない、と言う。

彼の家で一泊したあと次の日は400km以上離れたワシントンDCへ彼の家族3人と彼の車で向かった。5時間かかって行き、これまた個人の家で、それから3泊お世話になった。ここは子供が皆巣立って行ったので老夫婦がいるのだが、子供達がつい最近まで使っていた二部屋をあてがってくれた。日常調度はそのまま、机にはパソコンが開いたままの部屋を使った。ここも又、彼の家と殆ど同じで20m以上の大きな木立に囲まれ、隣との境は芝生が続いている。この家には彼ら夫婦と子供と私達夫婦の5人で1泊1万2000円のお礼でよかった。朝飯は冷蔵庫にあるものを勝手に使ってくれればよい、だった。払ったお金の多くが彼ら夫婦の属する教会に寄付されるのだという。アメリカのキリスト教会はワシントンDCへ行く道中、200mごとに1つあるくらい沢山の宗派があって、自分の属する宗派には皆熱心なのだという。

彼の家から3kmくらい離れた所に、3.5kmくらいの湖がある。その回りを歩いた。ウォーキング、ジョギング、サイクリングなど、沢山の人に出会ったが道中、空き缶やペットボトルはおろか紙くず一つ落ちていなかった。京都へ行くと宝ヶ池の回りを何度か散歩したが、ゴミがひどく散乱している。日本人の文化、マナーはアメリカ人と比べてどう捉えればよいのか、考えさせられた。

彼ら夫婦の一人息子のエヴァン涼くんはこの月末で満6歳、父は英語で話し、同居の祖父は勿論英語、しかし母親は日本語で話す。よって見事なバイリンガル。私達には日本語で話してくれる。その日本語がきれいな東京弁。9月から小学1年生、文句なしに英語に堪能になる。彼は妻が日本語を仕込んでくれることに期待している。

左 ワシントン祈念モニュメントの前で。下左 私はオバマ大統領とライデン副大統領を支持します、のステッカー ワシントンで「オバマ」の文字を見て嬉しくなった。下右 車のナンバープレート、見にくいですが、プレートの上段に、赤で「FIRST IN FLIGHT」と書かれている。ノースカロライナ州は世界で1番にライト兄弟が飛行機に成功した所、の意味。州の自慢がプレ



ートに刻まれているところが面白い。

